



第3章

カトリック教育の果実

「あなたがたは世の光である。

山の上にある町は、隠れることができない。

そのように、あなたがたの光を

人々の前に輝かしなさい。」

(マタイによる福音書 5・14 & 16)



世を光 照らす

クリスチャンが少数である日本において、カトリック学校は、布教よりも、教育を通して、キリストの教えに従った生き方で社会を照らす人びとを送り出しました。カトリック学校は、多くの人々の熱意と努力によって、社会全体に根強かったキリスト教への反感や偏見、そして国家による圧力などを乗り越えて、日本社会に少しずつ受け入れられ、日本人にとって、キリストがもたらした福音の光に出会う窓となったのです。



カトリック学校の始まり

明治時代の始めから教育を通して、日本社会の上層への浸透を目指したプロテスタント諸教会と異なり、カトリック教会は、近代化する社会の底辺で困窮する民衆の福祉や医療に力を注ぎました。最初期の宣教を担ったパリ外国宣教会とその依頼を受けて来日したサン・モール修道会(現・幼きイエス会)、ショファイユの幼きイエズス修道会、シャルトル聖パウロ修道女会などは、当初、育児事業や無償の小学校の設立に力を入れたのです。外国人の宣教師たちと彼らに協力した人びとの存在と働きは、大きく変動する社会の中で苦しむ「小さき人びと」にとっての救いの光となりました。

明治時代中期になると、カトリックでも社会の上層に働きかける重要性が意識されるようになりました。マリア会は始めから上流階級への働きかけを目的とし、1888年(明治21年)東京に暁星学校(男子学校)を創立します。有力者の子どもなども通うようになり、その中から政治家、軍人、文化人など社会的影響力を持つ人々が多く生まれました。女子教育でも、良家の子女を対象とする高等女学校などが相次いで設立されるようになります。さらに、カトリックの高等教育機関の設立を求める声に応じて、1913年(大正2年)にはイエズス会が上智大学(当時は男子のみ)を、1916年(大正5年)には聖心会が私立聖心女子学院高等専門学校(聖心女子大学の前身)を創立したのです。

これらのカトリック学校が社会から高い評価を受けることによって、その後大正から昭和にかけてさらに多くのカトリック学校が設立されていきました。

1877年
来日

ショファイユの 幼きイエズス修道会

信愛女学校、大阪信愛高等女学校[現・大阪信愛学院](大阪)、
熊本玫瑰女学校[現・熊本信愛女学院](熊本)

長崎

❖ 海星小学校・
中学校

大阪

❖ 明星商業学校
❖ 信愛女学校・
大阪信愛高等女学校

熊本

❖ 熊本玫瑰女学校

八代

❖ 私立八代女子技芸学校

1878年
来日

シャルトル聖パウロ修道女会

女子仏学校(のち神田女子尋常高等小学校、仏英和高等女学校)[現・白百合学園](東京)、
聖保禄女学校[現・函館白百合学園](北海道)、
私立盛岡女学校(のち東北高等女学校)[現・盛岡白百合学園](岩手)、
私立仙台女学校(のち仙台高等女学校)[現・仙台白百合学園](宮城)、
私立八代女子技芸学校[現・八代白百合学園](熊本)

1908年
来日

聖霊奉侍布教修道女会 (聖霊会)

私立聖霊学院女子職業学校[現・聖霊学園](秋田)

1908年
来日

聖心会

私立聖心女子学院高等女学校・小学校、
聖心女子学院外国人部
[現・聖心インターナショナルスクール](東京)

函館

❖ 聖保禄女学校

盛岡

❖ 私立盛岡女学校

秋田

❖ 私立聖霊学院
女子職業学校

仙台

❖ 私立仙台女学校

東京

- ❖ 暁星小学校・中学校
- ❖ 築地語学校
- ❖ 雙葉高等女学校
- ❖ 雙葉女子尋常小学校
- ❖ 女子仏学校
- ❖ 私立聖心女子学院
高等女学校・小学校
- ❖ 聖心女子学院外国人部

横浜

- ❖ サン・モール・
インターナショナルスクール
- ❖ 横浜紅蘭女学校

1888年
来日

マリア会

暁星小学校・中学校[現・暁星学園](東京)、
明星商業学校[現・大阪明星学園](大阪)、
海星小学校・中学校[現・海星学園](長崎)

明治時代に設立されたカトリック学校(校名は設立時。現在の校名または学校法人名を付している)

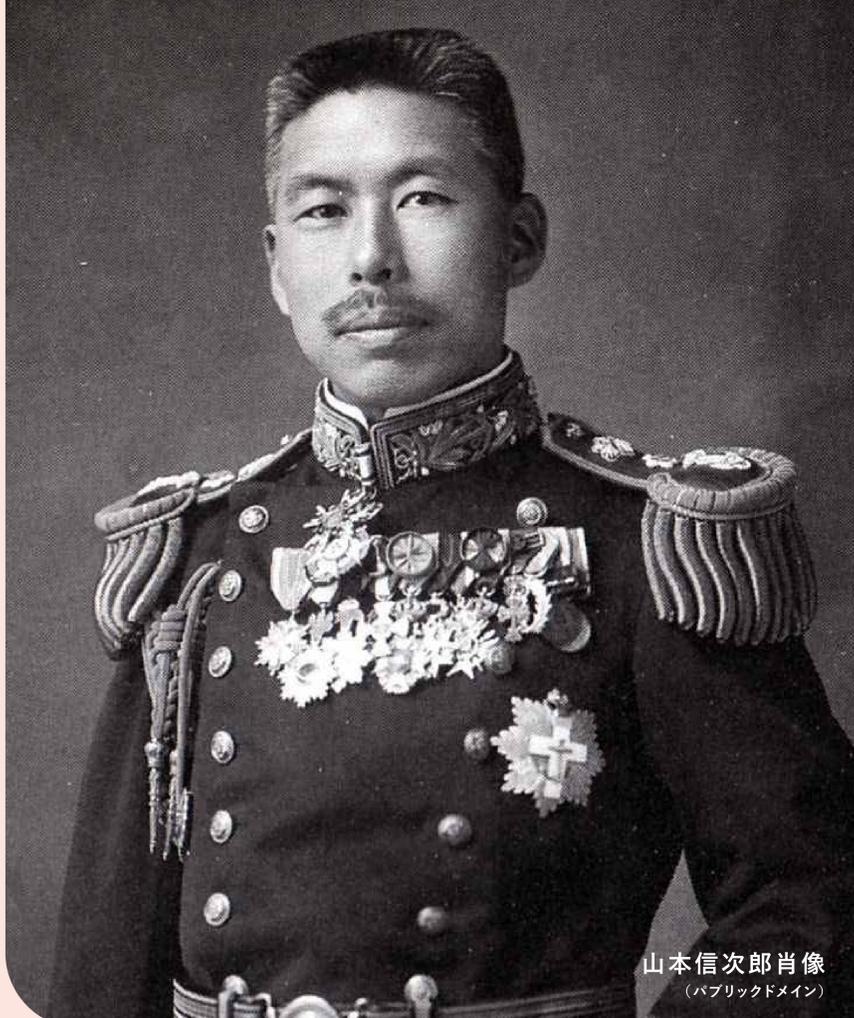
明治時代に創立されたカトリック学校は、マリア会が創設した3つの男子校以外は女子校でした。女子に教育は必要ないという固定観念が強かった時代に、カトリック・プロテスタントのミッションスクールは、多くの女性たちにとって新しい考え方や生き方を学ぶ窓となりました。これらの学校からは、シスター、教師、保育者などとして社会のために働く女性たちが出ただけでなく、家庭の中でも家族を支え、子どもたちを教育することで新しい社会を作り出す女性たちが生まれたのです。

1872年
来日

サン・モール修道会[現・幼きイエス会]

築地語学校、雙葉高等女学校、雙葉女子尋常小学校[現・雙葉学園](東京)、
サン・モール・インターナショナルスクール、
横浜紅蘭女学校[現・横浜雙葉学園](神奈川)、
仏英女学校[現・静岡雙葉学園](静岡)

明治時代に設立された
カトリック学校



山本信次郎肖像
(パブリックドメイン)



山本信次郎

1877 - 1942

山本信次郎は1877年(明治10年)に、現在の神奈川県藤沢市片瀬に、当時の鎌倉郡の郡長などを務めた地主の家に生まれました。暁星学園を創立したマリア会の修道士たちが、父が所有していた洋館を避暑地として借りたことで、付き合いが始まり、1891年(明治24年)に暁星中学校に入学しました(同校の4期生で10人目の入学者)。修道士たちとの寮生活でフランス語や英語を身に着けました。1893年(明治26年)に受洗(洗礼名はステファノ)。

卒業後は海軍の軍人となり、特にその語学力を買われて国際的に活躍しました。東郷平八郎の幕僚となり、日露戦争にも従軍しています。1914年(大正3年)には在イタリア駐在武官となり、教皇庁を始めとして、ヨーロッパのカトリック社会に幅広い人脈を築きました。第一次世界大戦の終戦後のパリ講和会議にも海軍代表の随員として参加、日本が得た南洋諸島への宣教師派遣問題(日本領となったことで引き上げた宣教師たちの代わりを派遣してもらう問題)で教皇庁との交渉に当たりました。

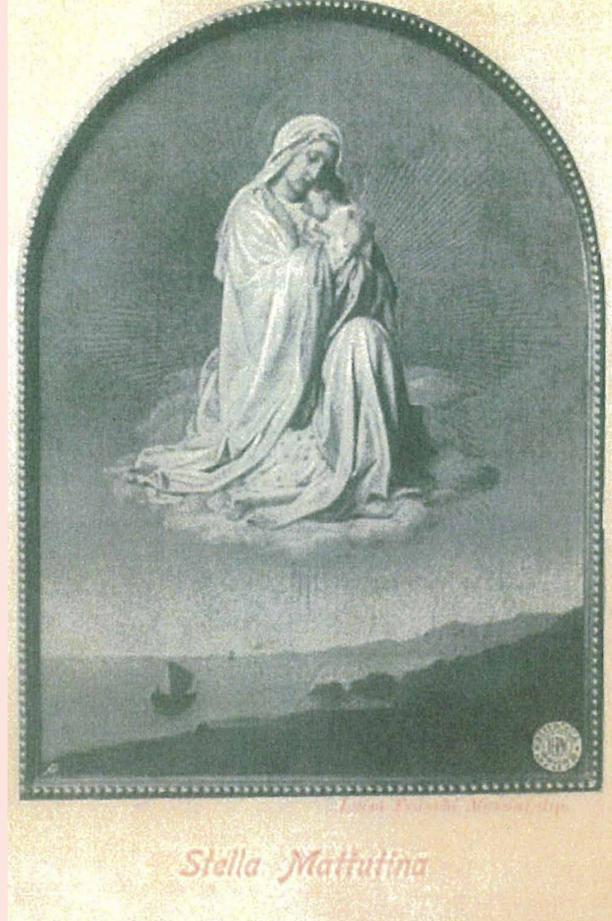
帰国後の1919年(大正8年)からは東宮(皇太子・のちの昭和天皇)の御用掛(フランス語教師)を務めました。1920年(大正9年)からは「公教(カトリック)青年会」の会長となり、「カトリック・タイムス」(のちの『カトリック新聞』)などの創刊にも関わりました。1921年(大正10年)の皇太子訪欧の随員も務め、ヴァチカン訪問をお膳立てしたとされます。その後も日本とヴァチカンの外交関係の樹立に尽力しました(ヴァチカンからは1919年に教皇使節が派遣され、日本は1942年に公使を設置した)。1937年(昭和12年)には片瀬の所有地をシャルトル聖パウロ修道女会に寄贈し、乃木高等女学校(現・湘南白百合学園)が設立されました。1942年帰天。



カトリック片瀬教会聖堂 (撮影:加藤和哉)

1939年献堂。珍しい和風建築の聖堂であった(ただし、建設当時は周囲の反発を恐れ、十字架や天使像は設置されなかった)。暁星出身でカトリック画家の長谷川路可(1897-1967)の聖画などがある。また、敷地内には山本家の別荘が移築されている。

暁の星の聖母像



(図1) ルイザ・ムッシーニ「暁の星の聖母」
(1905年以前) (Victoria University蔵)

聖画「暁の星の聖母」 (展示品)について

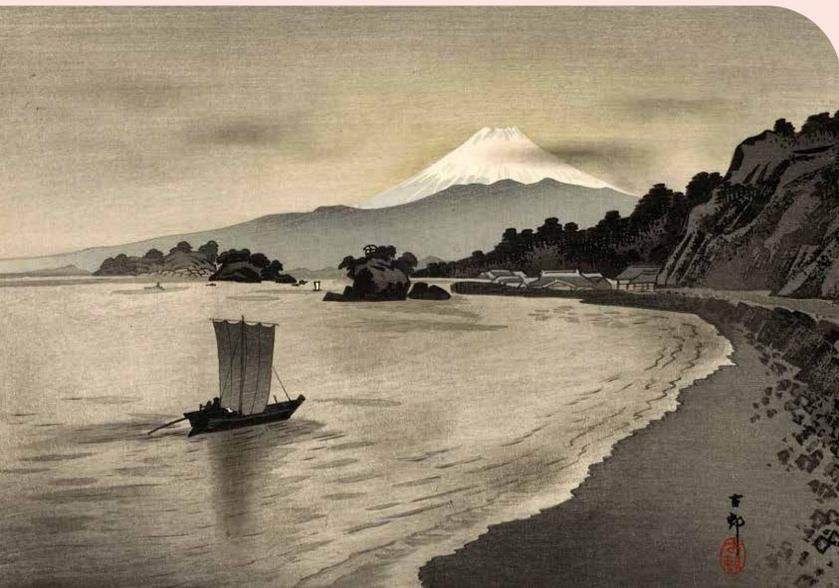
マリア会が創設した学校の校名は、暁星(東京)、海星(長崎)、明星(大阪)などがありますが、いずれも聖母マリアの別名に由来しています。マリア会とはその名の通り、聖母マリアをキリストに従った人間の模範として仰ぐ修道会だからです。

この絵は、山本信次郎がイタリア駐在武官を務めていた1917年にイタリア人の女性画家ルイザ・ムッシーニ(1865-1925)に依頼して描かせたものです。この絵を元に複製やカードが作られ、ローマのマリア会学院の校長エルネスト・モーリスが作った「暁の星の聖母の祈り」を添えて、日本でのキリスト教の布教の進展のためにフランスを中心に広められました。さらに、暁星の後輩の岩下壮一も1919年からのヨーロッパ留学中に、この運動を引き継ぎ、5ヶ国語のカードを作成して、世界中に配布しています。この絵を通して、世界中の人々が日本におけるキリスト教の広がり祈ったのです。

この絵によく似たムッシーニの作品「暁の星の聖母」(図1)が知られており、元の絵で聖母子の下に広がる風景を富士山を中心とするものに置き換えたものです。その富士山の姿は、手前の湾や島の形などから沼津の獅子が浜から見たもの(図2)であることが特定されており、またモチーフが日本画家小原古邨の描いた「西伊豆の帆掛け舟」(図3)に酷似していることから、その絵を参考にしたのではないかと推定されています。



(図2) 獅子が浜から見た富士山(個人撮影)



(図3)
小原古邨「西伊豆の帆掛け舟」(1900年)
(パブリックドメイン)